

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立山王小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・歌唱活動では、歌詞の内容を感じ取りながら意欲的に歌う児童が増えた。どのように歌うかについて、思いや意図をもっている児童が多い。
- ・器楽活動では、基本的な演奏方法を身に付け、楽器を大切にしながら演奏している。
- ・鑑賞では、音楽を形づくっている要素を聴き取り、演奏のよさや曲想の変化について話し合ったりワークシートに書いたりすることができる児童が増えた。

(2) 課題

- ・歌唱活動では、高い声を地声のまま歌う児童が数名いる。
- ・器楽活動では、技能に個人差があり、苦手意識をもっている児童がいる。
- ・鑑賞では、自分の考えをまとめ、ワークシートに書くことが難しい児童が各学年に若干名いる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較） *実施なし

(2) 分析（観点別）

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○歌唱の学習では、1年生は明るく元気に歌っている。2年生は声の出し方に気を付けて歌っている。 ○器楽では、鍵盤ハーモニカの運指やタンギングの習得に差があるが、運指やタンギングに気を付けて吹いている。	○歌唱の学習では、明るい響きで歌うことができている。 ○器楽では、拍のまとまりや音色に気を付けて演奏することができている。 ○鑑賞では、曲の様子を考えて伝え合うことができている。	○音楽への興味・関心が高く、友達と声や楽器の音色を合わせてすすんで活動し、考えを共有し合いながら学習に取り組む児童が多い。一方で、友達の前で発表することを苦手とする児童が数名いる。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○歌唱の学習では、曲の山に向かって強弱や歌い方を意識して歌う児童が増えてきた。 ○器楽では、鍵盤ハーモニカやリコーダーの運指、タン	○表現の知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴をとらえた表現を工夫している。 ○鑑賞では、音楽を形づくっている要素や旋律の特徴	○音楽への興味・関心が高く、友達と声や楽器の音色を合わせてすすんで活動する児童が多い。友達の前で発表することを苦手とする児童が数名いる。

ギングの習得に差がある。	のなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取って聴くことができる。	
--------------	---------------------------------------	--

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○歌唱の学習では、自然で無理のない声で表情豊かにのびのびと歌う児童が増えてきた。 ○器楽の学習では、技能面に個人差があり、演奏時の指使いやタンギングなどに苦手意識を感じている児童が見られる。前年度の学習を積み重ねることができている児童は、より豊かな表現ができるよう強弱やフレーズのまとまり等に気を付けている。	○表現の知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴をとらえた表現を工夫している。 ○鑑賞では、曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解して聴くことができる児童が増えてきた。	○音楽の授業では、曲想豊かに歌ったり、曲の山に向かって気持ちを込めて演奏したりする学習に積極的に取り組んでいる様子が見られる。 ○自分が納得する演奏ができるまで、繰り返し練習する児童が多く見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○歌唱では、範唱や友達の歌声、伴奏をよく聴いて、発声に気を付けて声を合わせて歌うようにする。 ○器楽では、教師や友達の演奏を聴いたり見たりすることで、音色を意識させながら、鍵盤ハーモニカや打楽器の適切な演奏の仕方が身に付くようにし、自らの演奏のよいところに気付かせ、今後の表現に生かすようにする。また、鍵盤ハーモニカの運指や息の強さに気を付け、拍の流れにのって演奏できるようにする。	○様子を思い浮かべながら、気持ちを込めて歌えるよう、歌詞の様子や曲の感じを伝え合う場面を多く設定したり、絵や写真を用いたりし曲想について考えるようにする。 ○リズム遊びなどを通して、どのように音を音楽にしていくなかについての思いがもてるようにする。 ○曲の感じや様子を思い浮かべながら音楽を聴き、友達と伝え合うような活動を取り入れる。 ○器楽では、範奏や友達の演奏を聴いて音の出し方や演奏の仕方を考え場面を	○グループ活動を通し、互いの考えを伝え合い音を合わせる楽しさを味わうことができる場面を増やす。 ○一人一人が意欲的に歌ったり、楽器を演奏したり、楽しんで聴いたりすることができる段階に合った曲を選択する。また、楽曲の気分に応じた表現を、声や音だけでなく、体全体で表現するような活動を取り入れる。 ○親しみやすい楽曲を選択し、曲の気分を感じ取って、身体表現を交えながら楽しんで聴く活動の充実を図る。

	多く設定する。	
--	---------	--

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○歌唱では、呼吸や発声に気を付けて無理のない自然な声で歌うとともに、友達の歌声をよく聴き、自分の歌声と調和させて歌うようにする。 ○器楽では、リコーダーや鍵盤ハーモニカの運指やタンギングを正確に覚えらるよう繰り返し学習する。また、4年生では、使用楽器の幅を広げ、鍵盤ハーモニカとリコーダーの他に、小物打楽器の基本的奏法を身に付けるようにする。	○歌詞の内容や楽曲の特徴から曲への思いを膨らませ、フレーズのまとまりや強弱を工夫して歌ったり演奏したりする活動を多く取り入れる。 ○互いの表現を聴き合ってそのよさを発見したり、体の動きを伴った表現活動を取り入れたりするなど様々な活動を工夫し、感じる体験を積み重ねる。 ○ワークシートを使って、考えたことを表現する。	○今月の歌を歌ったりリズム打ちをしたりして気持ちを切り替え、スムーズに音楽の学習に取り組めるように導入の工夫をする。 ○ICTを活用し、視覚からも理解を深めるようにする。 ○学習形態を工夫し、全体演奏のみでなく少人数での演奏に取り組み、楽しみながら協働的に活動できるようにする。 ○強弱や速度などの曲の特徴について全体で意見交換する時間を多く設け、曲への思いをクラス全体で共有するようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○歌唱では、曲想にふさわしい歌声を目指し、呼吸や発声の仕方を工夫して豊かな響きのある声で歌えるようにICTを活用し、歌う活動を増やしていく。 ○器楽では、授業の始めにリコーダーの音階を練習し、基礎技能の定着を図る。それにより自信をもって器楽活動に臨めるようにする。そのうえでそれぞれの役割を意識した音楽表現ができるようにパートの特徴を考えさせ、全体で共有をして演奏する。 ○机間指導をして、楽器奏法についてのつまずきを解消していく。	○歌詞の内容や楽譜、曲の雰囲気から、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて、一人一人が思いや意図をもてるよう工夫する。 ○全体交流の場では、拡大楽譜やICT教材を活用して互いに発表し、他者の発表を聞きながら考えを深めていけるようにする。 ○各題材の終了時に振り返りシートを活用し、学習内容や自らの学習活動を振り返り、学習内容の整理を行い、次の課題へつなげる。	○ICTを活用し、視覚からも理解を深めるようにする。 ○学習形態を工夫し、全体交流やパートごとに工夫する活動を多く取り入れ、自分たちで意欲的に作り上げる活動を取り入れる。 ○鑑賞では、合唱、合奏を含めた様々な種類の楽曲を取り入れ、音楽表現の多様性にふれ、合唱や合奏に生かしていくようにする。 ○振り返りシートでまとめた自らの目標や改善点を実現できるように積極的に努力できるようにする。

